

## 台湾における幼稚園教育に関する子どもの歌の変化について

—歌詞を中心とする—

林 盈均 (聖和大学大学院)

## はじめに

幼稚園や保育所など子どもを保育する現場において唱歌は欠かせないものであると考えられる。それらの歌のリズムや歌詞は子どもに適するかどうか保育者が心掛けているはずであるが、社会の動静が反映することもあるとも考えられる。台湾では、子どもの歌唱に関する研究が十分にされていないと考えられる。そこで、本稿はタイトルと歌詞の内容の変化について考察していきたい。

本稿は、台湾における1950年代から21世紀初期までの幼児教育保育案\*に記された歌や幼児教育用の歌唱教材を用いる。年代ごとに主な政治背景を通してどのような影響を受けているかを探していきたい。

## 考察

台湾における幼児教育に関する保育案は各幼稚園の保育者が作成したものであるが、歌のタイトルとその内容を見てみると四季、自然現象・環境、動植物、身体リズム、衛生保健、人間像、交通機関、スポーツ、幼稚園行事、遊び、戦争、国家に関するものなどに分けられる。

台湾の歴史には中国や日本などの影響があらゆる面に見られる。近年ようやく自国の歴史、文化は一体何かと意識して探り始めている。1945年に外来政権の国民党政権から2000年に台湾生れ政権に変わり、そのことが台湾の幼稚園教育にどのように影響及ぼしているかを子どもに歌わせた歌を通して見てみることにしたい。

さて、まず、歌のタイトルについて考えていきたい。50年代の台湾は、白色テに覆われ、戦争の状態が確立させられたのである。中国共産党が中華人民共和国を建国し、台湾の離島にある金門に攻撃を続けていた。台湾では「反共大陸」というスローガンを呼びかけ続けて、中国大陸へ帰るといふ夢を見ている時代であった。幼稚園教育の保育案に記した子どもに歌わせた歌のタイトルが全部で260首ある中で中国大陸へ帰る夢や戦争に関するものは28首もあり、11.5%にのぼるのである。例としては「小英豪」、「消滅共匪出口氣」、「小戦士」などが挙げられ、そのタイトルからも戦争に関する歌であることがわかる。そして、人間に関するものは蒋介石や孫文にしかみられない。その他は、リズム、動植物、自然現象などが殆どであった。

60年代には、初めての野党の創立が失敗に終わり、関係者らがスパイとして逮捕され、反国民党の民主運動が芽生えようとしているところを押さえられた

年代であった。戦後続いてきたアメリカの支援が断ち切られた。メディアとしてテレビが中心的な存在になった時代に入ってきた。世界大会でも優勝するなど野球を通して台湾の人々に自信をつけるようになった時代でもあった。

その時代に、幼稚園保育案に記された176首の歌を見てみると、戦争や中国共産党に関するものは27首あって、15.3%を占めているのである。これは50年代より上回っていると見られている。例えば、「前進」、「少年兵」、「飛將軍」などがあった。それは、台湾において反国民党の声が上がっているために国民党がそれらを押さえようと、一方では、国民党政権を固定するためであった。

70年代は、台湾にとっては、60年代に引き続いて様々な重大な出来事があった年代とも言える。国連の脱退、日本との国交の断絶、台湾での本格的に空港、高速道路などの建設が始まった、長く総統の位置にあった蒋介石がなくなって、息子である蔣経国が総統の座に座るようになった。また、アメリカとの国交の断絶もあった。そして、戒厳令以来はじめてデモが行なわれた。更に、現在の台湾民主化に繋がっているとも言える「美麗島事件」が発生、戒厳令以来台湾の政治的な環境が大きく変化した時代であったと考えられる。その時代までは、教育は「大中華」の主旨を持って行なわれているのである。

当時、幼稚園教育において子どもに歌わせた歌には、戦争や共産党を敵にする歌が306首中に3首までに減ってきた。しかし中華民国、中華民族、国旗など関する歌で60年代から引き続いてきたのは依然として存在する。そして、60年代までに余りなかった人間像に関するもの、例えば“教師”、“お母さん”などのタイトルの歌が出て来た。

80年代初期では、国民党政府の大陸共産党に対する態度は変わらず一貫としているが、38年間台湾の人々を縛り続けた戒厳令が80年代末に解除され、民主化が進行した。この時代には、幼稚園における子どもの歌700首位の歌の中に中国の共産党を敵とする歌が見えなくなってきたが、中華民国を称え、中国大陸は我が国土であると子どもに歌わせた歌は11首くらいがあり、全体として約1.5%になる。一つ例を挙げると、「美哉中華」に「……わが国は土地が広くて、産物が豊富……」とあるようにまるで中国大陸はわが国であると意識させようとしている内容であると考えられる。それは、当時の国民党政権が揺れている政権を固めようとしているとも考えられる。

国民党の政策に従う内容の歌が減ってきたことは、

台湾での国民党政権が国内や国際的に立場を弱め、反国民党の人々が台湾人としての意識を高まりはじているのを示しており、思想や言語の自由が保障されるようになってきたのであると考えられるだろう。

しかしながら、人間像に関する歌は70年代からの「教師」、「母親」以外に、60年代から引き続いて「蒋介石」、「孫文」を称える歌も出てきている。これは国民党に長く押しつけられてきた「大中華」の教育構造から抜け出して、自分の生まれ故郷、身近なものを見つめなおすことと、政治的な影響から脱し、もっと子どもの生活を中心としたものにしていくという意識に繋がっていくことが簡単にはできなかったと考えられるだろう。

90年代から現在にいたっては、保育案に記された戦争に関する歌が見えなくなったが、蒋介石や国父を称える歌がまだ僅かに残っている。その中に台湾の民謡や童謡なども出てくるようになったのである。

50年代から90年代まで歌のタイトルを見てきたが、政府の政策の下で歌わせる歌の数が年々に減ってきたことは、幼稚園教育の保育案内容が社会や政府の政策に左右されていることをあらわすと考えられる。

さて、第二には、歌の内容における言葉使いについては、50、60年代では、言葉のリズムを重視し、短い言葉で、歌の全体を伝えようとしていた。そして、「共産党が悪団体」、「私は小戦士」、「反共大陸」、「光復大陸」、「復讐」までなどの言葉がしばしば使われている。それは国民党政権が台湾の人々の幼児期から「我国は中国大陸であって、そこに据えている共産党が反乱団体であり、国民党が追い出す神聖な使命を背負っている」ということを分からせるためであった。

そして、70年代の激しい社会変動の中で、歌のタイトルに戦争に関するものが少なくなってきたが、歌の内容言葉使いには、タイトルに戦争に関することに関係ないにも関わらず歌詞の内容には戦争に関した歌詞があると見られる。1つの例を見てみると、タイトル「郵便配達者」に戦争に勝つ、中国の共産党を撃退するなどの歌詞が見られるのである。

80年代は、台湾における画期的な出来事は38年間続いた戒厳令が解除され、本格的に言論自由が保障されるようになり、民主的な国家へと進んで行くようになったことである。その状況の中で幼稚園教育用の子どもに歌わせる歌の言葉使いには政策の影響がみえなくなるが、「可愛的台湾」には、「…台湾はいいところであって、物産が豊富であって、発展が進んでいること、蔣総統（蒋介石）がリートして中国大陸へ帰って同胞を救い……」などの歌詞内容あって、蒋介石は中華民族の救世主であると称える子どもに歌わせる歌が2、3首あって、比率としては低い方である。その一方、台湾語での歌や昔から伝わってきた歌が歌われるようになったのである。

90年代から現在まで徐々に台湾の意識が表面化

してきて、大陸へ帰る夢から目覚め、大陸にいる共産党が我々と平等な立場であると考えようになって、我々の国は台湾であると意識して、もっと台湾を認識しなければならないと目を向けるようになった。幼稚園教育用の子ども歌の歌詞は戦争や共産党などに関する政治的な影響を受けた言葉が見えなくなったのである。そして、子どもに子どもの生活を返すべきであると考え始めたようである。

また、1949年以來、台湾では、国民党政権の下で言葉は北京語と規制されているので教育現場には北京語しか使われなかったために幼稚園教育もその規制から逃れることができなかった。そのため、子どもに歌わせた歌は例として「小鷄喝水」が従来台湾語で歌う歌詞も北京語に書き換えられたことがあった。80年代末に戒厳令が解除され、軽視されてきた台湾語を大切にしなければならないという考えから、台湾語の童謡がでてきた。その数は772首の歌の2.6%を占めており、比率としては少ないが、公開の場で台湾語で話し、歌うことができ、書物が出せるようになったことが台湾での社会の中での大きな変化であると言える。

#### 終わりに

50年代から現在までの台湾における幼稚園教育の保育案に記されていた子どもに歌わせた歌について考察してきた。それらの歌は当時の政府の政策に知らずに従わされてしまったと分かる。更に、使用されていた言葉は殆ど北京語であって、90年代まで台湾語で歌わせなかった。

ここでは、幼稚園教育はいくら軽視されていたとしても、国家の動きから無縁であることができないこと、様々な教育の方法で、小さな隙間に影響を与えて行くことが理解できる。

#### 引用・参考文献

- 台湾史 100 件大事 (下) 戦後編 李筱峰 著 1999 年 玉山社  
台湾歴史年表 遠流台湾館 編集 2001 年 遠流出版株式会社

\*幼稚園・託児所などの保育指導案と計画 1950 年～2002 年まで何十冊など